労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

日刊
動労千葉
'79.10.28
No. 全国版 36
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二－八（動力車会館）
（鉄電）二三五八～九・（公衆）〇四七三（22）七二〇七

真に闘う者は誰か！

鮮明に突き出した 動労千葉の10・22スト

動労千葉は、三里塚二期工事粉砕・ジェット増送阻止・「国鉄三五万人体制」粉砕をかかげた「10・21国際反戦闘争」を10・22ストを頂点とする連続決起によって敢然と闘い抜きました。10・20県労連集会、10・21三里塚現地集会、成田拠点総決起集会を経て10・22成田拠点ストと全組合員による減産A行動が万全の体制をもって闘い抜かれたことによって、「冬の時代」「安定宣言」路線によって「当局の尖兵にして親衛隊」となり下った「本部」反動暴力集団と「闘う動労千葉」との対比はより一層鮮明になりました。

※※※※※※※※※※※※※※

闘争放棄、動労千葉破壊に専念＝反動暴力分子

「本部」反動暴力集団のこの間の〝闘い〟とは一体何であったか。

闘う気など全くないにもかかわらず、自らが「最も左翼」であるかのようにふるまい、闘わない方針を暴力的機関決定をもって組合員に押しつけ、武操型貨物合理化、53・10合理化などの前に職場と国鉄労働者を売り渡し、そのことに最も鋭く反対する千葉地本を排除するために、津山大会に端的に示されたように、なりふりかまわぬ暴力をもって機関を私物化し、セクト的に引きまわしてきたことは動労組合員のみならず、日本労働運動、階級闘争の中で知らない者はありません。

そして、3・30動労千葉結成大会の成功に驚きあわてた反動暴力分子は全国の組合員を引きまわし、三万人の動員と数億円の組合費をつぎ込み、革マル学生を先頭にした竹ヤリ部隊まで投入し、バール、カケヤ、ペンチ、ノコギリ、投石等、およそ労働運動にあるまじき暴力を前面におし出した組織破壊攻撃を行い、一方で、「動労千葉は公労委に認知されない。労働組合ではない」「当局と交渉できない。当局と協約協定も結べない」「動労千葉は財政的に成り立たない。ストライキなどできない」というデマ宣伝を繰り返してきました。

そればかりではありません。当局・権力に泣きつき、本社↓千葉局という形で圧力をかけることを通して、自らの白昼公然の暴力を容認してもらう一方で、動労千葉への弾圧を「三項八号を適用しろ」「クビにしろ」などと要請し、鉄労以下の第二マル生攻撃の尖兵とまで成り下った姿は、いまや世間の物笑いとなっています。

鉄労以下の闘争破壊策動

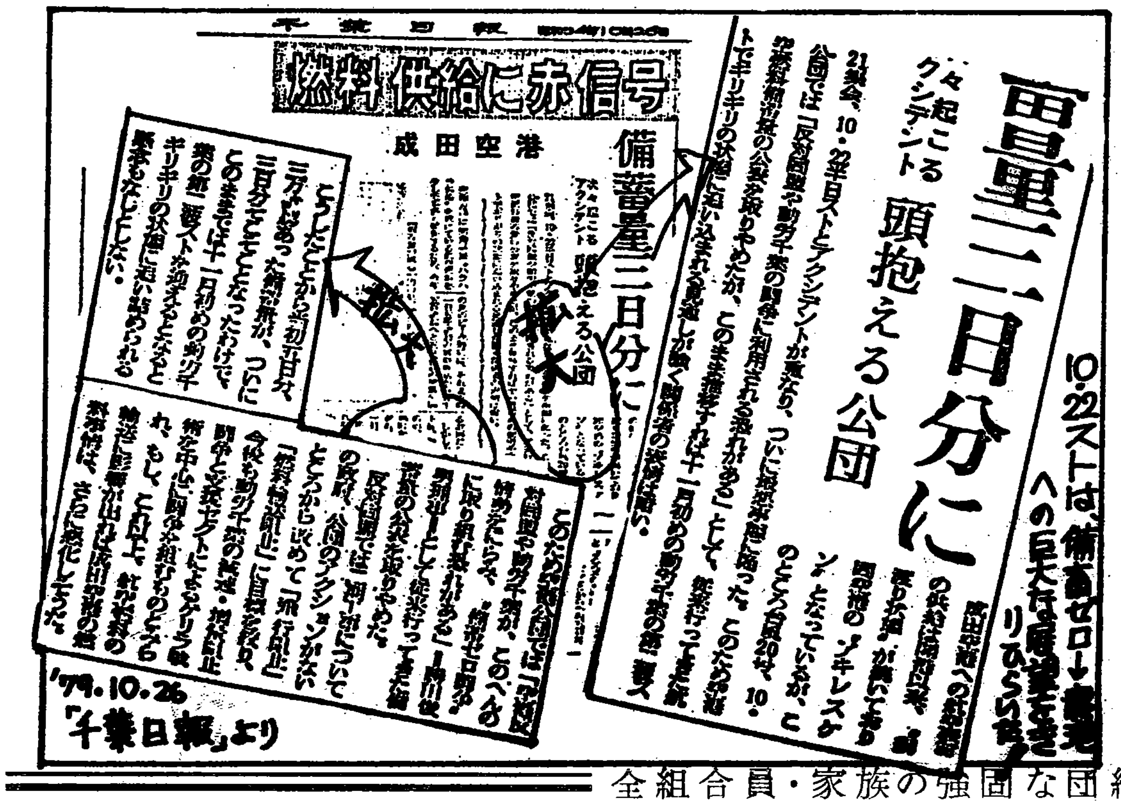
「10・21国際反戦闘争」に当っても、自らが「日勤者の大半が休む日曜日の昼休みに、勤務時間に二九分食い込む職場集会」と全国動員のカンパニア集会しか提起できない状況の中で、動労千葉が職場生産点に立脚した真の反戦・政治闘争を構築することによって、自らの反労働者的本質が暴露されることに真底恐怖し、自らが10・21闘争から逃亡するために拠点成田支部を中心に「10・22スト断固反対」などと、鉄労以下の敵対をもって暴力的闘争破壊攻撃を行ってきたのです。

闘う動労千葉と共に決起しよう！

全国の動労組合員のみなさん。

動労千葉はこの10・22ストの成果を踏まえ、さらに、第二、第三の闘いをもって、79秋年↓80春闘の高揚を創り出し、「国鉄三五万人体制」粉砕、三里塚二期工事粉砕・ジェット増送阻止の「反合・三里塚・ジェット闘争」を闘い抜く決意です。

「本部」反動暴力分子の「冬の時代」「安定宣言」「水本謀略」路線を粉砕し、動労の戦闘的伝統を守り、八〇年代の展望を切り拓く労働運動の戦闘的再生へ向けて、共に決起しようではありませんか。



千葉日報

燃料供給に赤信号

成田空港

備蓄量三日分に

頭抱える公団

々起こる
クシデント

21集会、10・22平日ストとアクシデントが重なり、ついに緊急事態に陥った。このため公団では「反対同盟や動労千葉の闘争に利用される恐れがある」として、従来行ってきた燃料輸送の公表を取りやめたが、このまま推移すれば十一月初めの動労千葉の第二波ストでギリギリの状態に追い込まれる見通しが強く関係者の表情は暗い。

こうしたことから当初十日分、三万キロ以上あった備蓄燃料が、ついに三日分そこそことなったわけで、このままでは十一月初めの動労千葉の第二波ストを迎えるとなると、ギリギリの状態に追い詰められる懸念もなしとしない。

このため公団では「反対同盟や動労千葉が、このへんの情勢をにらみ、〝燃料ゼロ作戦〟に取り組む恐れがある」として従来行ってきた備蓄量の公表を取りやめた。

反対同盟では [illegible] の政府、公団のアクションがないところから改めて「飛行阻止」「燃料輸送阻止」に目標を絞り、今後も動労千葉の [illegible] 闘争と支援セクトによるゲリラ戦術を中心に闘争が組まれるものとみられ、もし、これ以上、航空燃料の輸送に影響が出れば成田空港の燃料事情は、さらに悪化しそうだ。

10・22ストは、備蓄ゼロ↓廃港への巨大な展望をきりひらいた！

'79.10.26「千葉日報」より

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！